

IEI

◆◆ 東野便り ◆◆
HIGASHINO DAYORI

02

学校法人
盈進学園 東野高等学校
総務部

「新しい戦前」であってはいけない——平和を考える夏

校長 小野田正利

謹啓

甚暑の候、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。1学期が終わりました。この間の本校教育活動への理解、ご支援に対して、改めて御礼申し上げます。

20日にあった1学期終業式で生徒に次のような話をさせていただきました。

暑い夏は平和について考えて欲しい夏です。

昨年末に放送されたテレビ番組「徹子の部屋」にゲスト出演したタモリさんが2023年はどういう年になるかと思ねられ、「新しい戦前になるんじゃないですかね」と発言したそうです。

直接この放送を見たわけではないのですが、その後にネットで話題になり、新聞でとりあげられて知りました。そのあと、ずっと気になっています。

戦前、戦いの前と書きます、反対のことばが戦後、戦いの後、ここでいう戦いは何を指しているかわかりますよね。第二次世界大戦、太平洋戦争、日本がアメリカなどと戦争をして日本人だけでも310万人が犠牲になった。その戦争が終わったのが1945年、それから何年たったかということで、この後の8月6日、8月9日の広島、長崎に原爆が落とされた日、8月15日の終戦記念日に、この戦後78年という言葉を目にするとします。

戦後ということばを太平洋戦争の後の戦後に限らないと、日本の近現代の歴史の中で、戦後がこんなにも長かったことはかつてなかったことです。

1894年に日清戦争、1904年に日露戦争、1914年に第一次世界大戦と10年ごとに日本は戦争をしてきて、その後も中国大陸に軍隊を送りやがては太平洋戦争になるわけです。それぞれの戦争の戦後はほとんどなかった、今のように戦争のない期間がこんなにも長く続いたことはなかったのです。

その戦後と反対の言葉が戦前です。平和が続いた戦後に対して、戦前は、戦争に向かっていった時期、戦争の準備をしていた時期、ということになります。その戦前に、どうして戦争が止められなかったのか、それを歴史家が研究し、それを教訓にして、戦後の長い平和に生かされてきたわけです。

ただ、ここで注意したいのは、戦前に生きた人々に戦前という自覚がどれだけあったのか、あったとしてもその危機感がどのくらいのものだったのかということです。戦争になるかもしれないと何となくは感じていたかもしれませんが、それがいつになるのかは市民にはなかなかわからない。まだ大丈夫だろう、誰かが何とかしてくれると油断していて気づいたら戦争になっていた、戦後になって後悔する、そんなことだったのではないのでしょうか。

学校法人
盈進学園 東野高等学校〒358-8558 埼玉県入間市二本木112-1
Phone 04-2934-5292(代表) Fax 04-2934-4665EISHIN GAKUEN
SCHOOL FOUNDATION HIGASHINO HIGH SCHOOL112-1 Nihongi, Iruma City, Saitama Prefecture 358-8558 JAPAN
Phone +81-4-2934-5292 Fax +81-4-2934-4665



東野便り

HIGASHINO DAYORI

学校法人
盈進学園 東野高等学校
総務部

タモリさんのことばに戻ります。「新しい戦前になるのではないか」。タモリさんはこの発言の意味を説明しなかったようですが、「新しい戦前になる」ということは「これから新しい戦争が起きる」ということですね。多くの方がこの発言に注意をはらったのは、「新しい戦前にしてはいけない、ずっと戦後でなければいけない」ということだったと思います。タモリさんも同じ気持ちで発言したのだと思います。

太平洋戦争戦前の人たちは世界情勢についての情報も現在のように知ることはできなかったもので、日本が置かれている状況をきちんと理解するのは難しかったでしょうし、民主的な選挙によって意思表示するという手段もなかった、軍部や一部の政治家の独走をとめることができず、結果的に戦争になることを許してしまったわけです。それらを学ぶことによって、同じ過ちを繰り返さないということですね。その学びは私たちにも求められているでしょう。

決して新しい戦前にしないこと、ずっと戦後であり続けること。私たちは平和を守り続けなければなりません。タモリさんの発言に、心配しすぎです、と言わなければなりません。この夏休み、8月6日、9日、15日のタイミングでいいです、新しい戦前にしてはいけない、ということばを思い出してください。

新聞やテレビ、雑誌などの報道の世界で「8月ジャーナリズム」という言葉がかつてよく使われました。

原爆が落とされた日、終戦記念日などがある8月に、戦争を振り返る、平和を考える記事や特集が新聞などに多く掲載される、逆に言うと、それ以外の時期にはそういう記事が少なくなる、そんなメディアの姿勢を批判する、皮肉る時に「8月ジャーナリズム」などと言われました。

日々新しい出来事が起き、伝えなければならないニュースが途切れることはありません。それらを追わなければならないのがメディアの宿命でもあり、戦争を振り返る、平和を考える記事を発信する余裕がなくなるのは否定しませんが、報道に携わる立場の間は誰ひとりとしておろそかにしているわけではない、と信じています。ジャーナリズムの究極の目的は戦争をさせないことともいいと思います。

一方で、少し開き直って考えてもいます。「8月ジャーナリズム」でいいじゃないか、それすらなくなったらどうするのか、と。

この「長い戦後」を続けていくために、高校生みなさんに自分のこととしてとらえ、これから何をしていかなければならないかを考え、問い続けていって欲しいと切に願っています。

戦争について、平和について、そのような話は何もジャーナリズムに限ったことではなく、時期を問わずに機会さえあれば生徒のみなさんに話さなくてはなりませんが、8月だけは、いや8月だからこそ、生徒たちに伝えなければならぬと考えています。

暑い夏です。ご自愛ください。

謹白

次に生徒のみなさんが登校するのは8月18日（金）です

学校法人
盈進学園 東野高等学校〒358-8558 埼玉県入間市二本木112-1
Phone 04-2934-5292(代表) Fax 04-2934-4665

EISHIN GAKUEN SCHOOL FOUNDATION HIGASHINO HIGH SCHOOL

112-1 Nihongi, Iruma City, Saitama Prefecture 358-8558 JAPAN
Phone +81-4-2934-5292 Fax +81-4-2934-4665